クローバーだより

2022年５月１３日
名古屋柳城短期大学附属
三好丘聖マーガレット幼稚園
林　知子

子どもの発達段階と年齢に応じた課題を理解しておこう！①

子どもの成長には個人差がありますが、おおよその身体的発達・精神的発達・感情的発達の成長の流れは共通しています。この共通の成長を発達段階と呼びます。
この発達段階を理解し、適切なタイミングでその時期に合った対応やサポートをしていくことで、子どもたちは様々な力を得ていき、スムーズで健やかな成長をする事が出来ます。

心理学者のエリクソンが提唱した「心理社会的発達理論」は人間の心理が周囲の人や環境に合わせて作用しているという考え方で、この中でも子どもの発達段階は、現在でも教育機関に携わる職種や幼児教育、育児に勤しむ方に親しまれており、参考にされています。

エリクソンの提唱する発達段階はどのようなものか、みていきましょう。

１，乳幼児期（０歳～１歳６ヶ月くらい）・・・基本的信頼の発達
２，幼児前期（１歳６ヶ月～３歳くらい）・・・自律性の発達
３，幼児後期（３歳～５歳くらい）・・・・・・自発性の発達
４，学童期（５歳～１２歳くらい）・・・・・・勤勉性の発達
５，青年期（１２歳～１８歳くらい）・・・・・同一性の発達

１、乳幼児期（０歳～１歳６ヶ月くらい）　基本的信頼の発達

生まれたばかりの赤ちゃんは周囲の人に自分の欲求を泣いて伝えることで自分をアピールします。この時に親や周囲の人に助けてもらい、たくさんの愛情を受けることで信頼感を高めていくことが出来ます。しかし、反対に泣いても誰も助けてくれないという状況が続けば、不信感が育ち、今後の人生間や性格にも悪影響がおよびます。

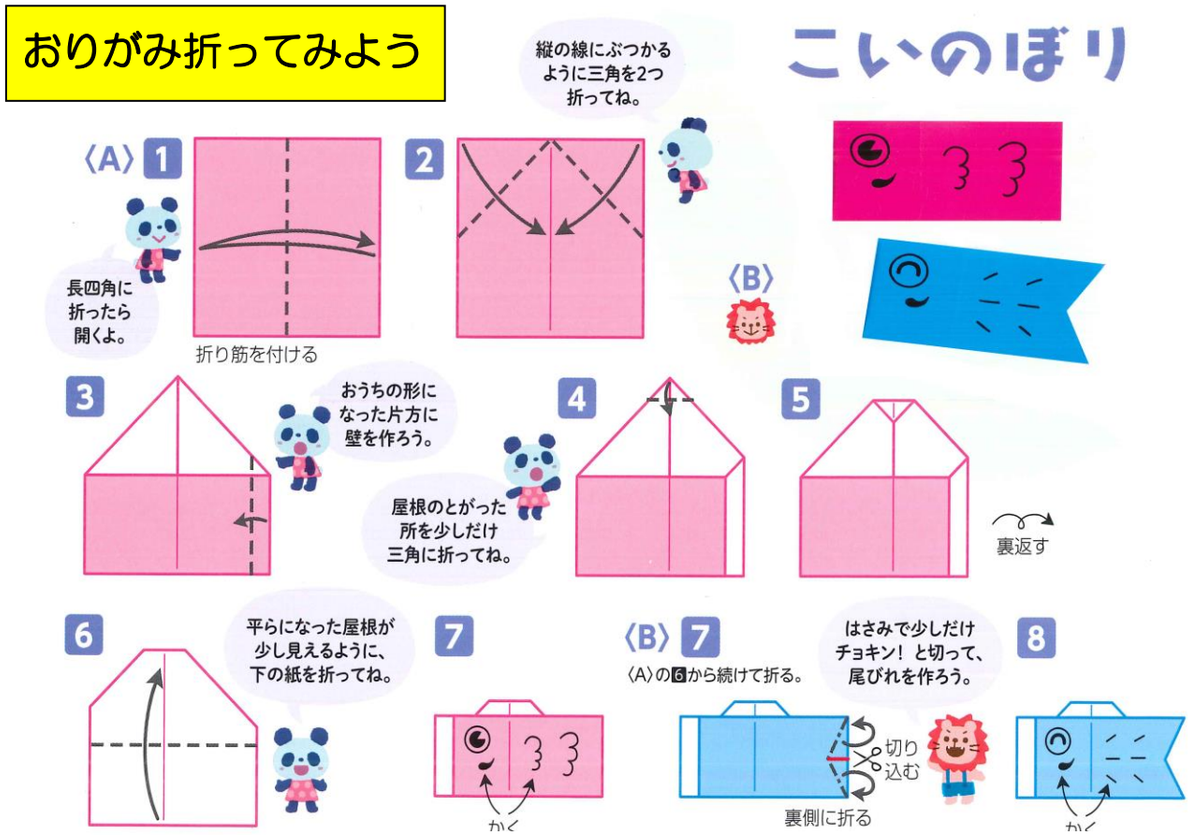
２、幼児前期（１歳６ヶ月～３歳くらい）　自律性の発達

言葉を話したり歩いたりするようになり、成長が早ければ何かを拒否するような反応を起こすこともあります。これまで親や周囲にしてもらっていた着替えや排泄、食事など自分でできるようになり自律性が養われます。この時期になったら、食事、排泄、着替えなど自分でやってみる機会を積極的におこなっていきましょう。

この時期になっても子どもに何もせず親がすべてしていると、自律性は育たず新しいことにチャレンジしようとする気持ちが弱まってしまう可能性があります。

この時期に子どもの自発性を無視して親の考えを押し付けたり、適当にあしらっていると、子どもは受動的になり自ら考えたり行動しなくなります。
今回は幼児期前期までご紹介しました。次回は幼児期後期から青年期についてご紹介します。

おりがみ折ってみよう



10ぴきのかえる

いたずら坊主に、コンクリートの池に入れられてしまった10匹のおたまじゃくしたち。故郷のひょうたんぬまに帰るため、みんなで力を合わせます。大人気シリーズの第一作、個性豊かなかえるたちの冒険譚です。

作／関所ひさこ　絵／仲川道子

「いただきます」を大切に

「いただきます」という言葉は、感謝の気持ちを表しています。わたしたちは毎日、他の生き物の命をいただいています。そして、食物を育てる人やそれを運ぶ人、料理をする人など、食卓に並ぶまでに携わるさまざまな人に感謝をしながら食事をしたいものですね。子どもたちと食事をしながら、「魚はどこから、どんなふうにみんなのお皿の上に来たのかな？」などのやりとりをしてみましょう。食事をいただくことに感謝の気持ちが膨らみます。

《子育て相談》
自分の子育てはこれでいいのかな？と不安に思われた時、こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか？保育経験者がお話しさせていただきます。
お電話で予約していただき、ご都合の良い日を決めさせていただきます。
TEL　０５６１－３６－８３７３　　お電話お待ちしています